

令和7年度  
こころ医療福祉専門学校  
学校自己評価結果報告書

令和8年4月1日

令和 8年 1月 30日（金）令和7年度学生・教職員アンケート実施

※教職員・学生アンケートと学校自己評価との連動基準

教職員・学生アンケート評価基準3.1～4.0 → 学校自己評価「4」

教職員・学生アンケート評価基準2.1～3.0 → 学校自己評価「3」

教職員・学生アンケート評価基準1.1～2.0 → 学校自己評価「2」

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン  
（平成25年）準拠

## 1. 学校の教育目標 令和7年度

- 1 ビジョン  
地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる
- 2 学校経営スローガン  
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 3 重点教育目標
  - (1) 絶え間なく教育の質の向上を図り、国家試験合格率・就職率100%の達成
  - (2) 社会人基礎力を身につけた「自立した職業人」の育成
  - (3) キャリアビジネス科を含む留学生教育の充実と進路開拓
  - (4) 「学校自己評価」と本校独自の「学科目標シート」による学科力アップと学校活性化
  - (5) 学校体制として取り組む学生募集－200名以上の学生確保
- 4 具体的な対策
  - (1) 「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
  - (2) 自立する職業人への準備教育の推進
  - (3) 退学者・不登校生の減少対策の推進
  - (4) 国家試験・進路指導の充実
  - (5) 留学生教育の質の向上
  - (6) 「個人自己評価」と本校独自の「学科目標シート」による学校活性化
  - (7) 「攻めの学生募集」の推進－200名以上の学生募集
- 5 環境美化と地域社会等との豊かな関係づくり
  - (1) 環境美化活動の推進と心のこもったサービスの提供
  - (2) 学園ビジョン「地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる」の具現化
  - (3) 地域社会や関係各校、機関、施設等との連携強化

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 絶え間なく教育の質の向上を図り、国家試験合格率・就職率100%の達成
- (2) 社会人基礎力を身につけた「自立した職業人」の育成
- (3) キャリアビジネス科を含む留学生教育の充実と進路開拓
- (4) 「学校自己評価」と本校独自の「学科目標シート」による学科力アップと学校活性化
- (5) 学校体制として取り組む学生募集－200名以上の学生確保

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも掲載され明確である。「等しく可能性を信じ」、「専門分野の深い知識」のみならず、「誠実、気力、知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく、人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される人材を輩出することで社会に貢献することが目的である。 【教職員アンケート 質問1 3.4】(3.4)
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	各学科とも専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、各業界との連携を重視し、理論と実践のバランスのとれた教育を実施している。各業界の現場で活躍する非常勤講師を豊富に揃え、学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。 【教職員アンケート 質問2 3.0】(3.1)
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後、さらに進行する少子高齢化に備え、老人福祉施設、医療機関や地域社会との密接な連携を推進し、社会のニーズに合った将来を見通した学校経営をしている。 【教職員アンケート 質問3 3.2】(3.2)
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて、また、入学後も保護者説明会、オリエンテーション、定期的校内広報紙、HPでの情報公開等を通じて、繰り返し周知を図っている。全校生に対する学生アンケートを利用して、周知状況は確認している。 【教職員アンケート 質問4 2.7】(2.7) 【学生アンケート 質問1 2.8】(2.8)
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、各学科と関連業界との情報交換は年間を通じての分科会も設定するなど、年々充実しており、将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように、各学科ごとのディプロマポリシーを定めている。 【教職員アンケート 質問5 3.0】(3.0)

#### ①課題

概ね昨年度と評価に変わりはないが、学生・保護者等への学校理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの周知について課題がある。

#### ②今後の改善方策

学生・保護者等への学校理念・目的・育成人材像・特色・将来構想について、教職員研修会などを通して理解を深め、教職員が適正・適切に周知できるよう取り組みを行っていく。

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になるという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の医療・福祉業界のみならず、観光・飲食業界等との連携を密にし、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 3.0】(2.8)
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 3.2】(3.1)
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。 【教職員アンケート 質問13 2.6】(2.8)

#### ①課題

昨年度課題であった「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」については、改善がみられている。  
「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について悪化している。

#### ②今後の改善方策

情報システムの業務効率化について、設備投資も含めて引き続き改善していく。

#### ③特記事項

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (3) 教育活動

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形での教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問17 3.1】(2.9)
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。 【教職員アンケート 質問23 2.5】(2.3)
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積む取り組みをしている。また、新任教職員に対して、全般的な組織理解や指導力向上のための研修を実施している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	毎年年に3回全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。

#### ①課題

「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」については、昨年度からやや改善は見られるが、評価としては低い水準に位置しており、引き続き課題となっている。

#### ②今後の改善方策

教員確保については、年間を通して継続的な取組みを実施し、併せて既存の教員の専門性・教育力の向上を図り、より質の高い教育の提供を目指していく。

#### ③特記事項

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	資格取得率の向上は図られている。国家資格試験の合格率は、全体的に全国平均以上の結果である。 【教職員アンケート 質問28 3.2】(3.3) 【学生アンケート 質問3 3.3】(3.2)
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題を抱える学生およびその家族とは頻繁に面談を行い、退学率の低減に努めている。また、隔週1回、希望する学生、職員については、スクールカウンセラーとの面談の機会を設けている。 【教職員アンケート 質問29 2.7】(3.0) 【学生アンケート 質問4 2.9】(2.7)
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立っている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。同窓会組織のない学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問31 2.8】(2.8) 【学生アンケート 質問6 2.7】(2.7)

#### ①課題

退学率の低減について、学生からの評価は改善したものの、教員からの評価については悪化している。

#### ②今後の改善方策

退学率低減のため、教員とスクールカウンセラーの連携を図りながら、問題を抱えている学生の支援を行っていく。

#### ③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	関係企業に呼びかけ校内で就職説明会を開くなど、在校生の就職活動を支援している。また、卒業後も学園グループの人材紹介事業会社を通じて就職活動の支援に努めている。 【教職員アンケート 質問32 2.9】(3.3) 【学生アンケート 質問7 2.9】(2.9)
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1	クラス担任を通じた相談、心理カウンセラー窓口を通じた相談等、複数の相談窓口を整備している。 【教職員アンケート 質問33 3.1】(3.0) 【学生アンケート 質問8 2.9】(2.9)
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	私立専門学校授業料等軽減補助金(高等教育無償化)機関認定を受けている。また、各種奨学金申請及び採用にかかわる手続きの支援を積極的に行い、並行して経済的状況に応じた校納金分納の相談にも応じている。併せて、今年度は新型コロナに関する各種支援制度の活用を積極的に進め学生支援を実施している。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1	定期的な健康診断はもちろん、常勤看護師を中心とした衛生管理、生活指導委員会を中心とした安全・衛生指導を通じて、学生の健康管理の指導を徹底している。 【教職員アンケート 質問35 2.8】(3.0) 【学生アンケート 質問10 2.8】(2.8)
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	支援制度により学生団体活動が整備されていて、有効に機能している。 【教職員アンケート 質問36 3.1】(3.0) 【学生アンケート 質問11 2.8】(3.0)
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1	遠隔地からの通学者の支援を行っている。特に島原地区からは往復のスクールバスを運行している。また、最寄の駅から学校へのスクールバスを運行し通学への支援を行っている。留学生寮の設置及び整備を進めている。 【教職員アンケート 質問37 2.7】(2.8) 【学生アンケート 質問12 2.9】(2.8)
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1	入学前からの面談、入学後の保護者説明会、成績状況に応じた適宜の保護者面談等を通じて、保護者との連携を重視している。 【教職員アンケート 質問38 3.2】(3.2) 【学生アンケート 質問13 3.0】(3.0)
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1	不定期ながら、主に卒業生を対象に上級の専門知識や技能の公開講座を開いている。また、卒業生に対しても、就職や転職の情報交換の場を提供し、卒業後の支援にも努めている。 【教職員アンケート 質問39 2.8】(2.8) 【学生アンケート 質問14 2.7】(2.8)
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1	学校が高台中腹にあり、通学に若干負担があるため、最寄り駅に、朝の迎いのスクールバスを出している。また駐輪場があり、申請を行えばバイクでの通学も可能となっている。 【教職員アンケート 質問40 3.0】(2.9) 【学生アンケート 質問15 2.9】(2.9)
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1	高校でのガイダンス授業に加え、高校の要望に応え正規の時間割での定期的な出前授業を実施している。 【教職員アンケート 質問41 3.0】(3.0)

①課題

「学生相談に関する体制は整備されているか」「学生の健康管理を担う体制はあるか」については昨年度と大きく変化なく、今後も課題である。

②今後の改善方策

スクールカウンセラーと教員の連携を図りながら、学生が相談しやすい環境を構築していく。  
健康管理については、昨年度同様、留学生で体調を崩す学生が一定数いる。健康診断の結果等踏まえ、日々の生活管理まで含めて指導をしていく。

③特記事項

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4 (3) 2 1	施設基準は満たしており, なおかつ教室および共有区域などはスペースを確保している。備品の一部には開校以来の物もあり, 老朽化しつつあるものもあるが, 教育上の支障がないよう, 備品管理委員会が中心となって適時, 更新している。		
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4 (3) 2 1	学外の必要な臨床実習施設は確保している。 【教職員アンケート 質問43 2.8】(3.0) 【学生アンケート 質問17 3.1】(2.9)		
・防災に対する体制は整備されているか。	(4) 3 2 1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。 【教職員アンケート 質問44 3.2】(3.3) 【学生アンケート 質問18 3.0】(3.0)		

#### ①課題

「学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか」について、学生の結果については改善しているが、教職員の結果が悪化している。

#### ②今後の改善方策

各学科において必要な臨床実習、インターンシップ先は確保できているが、教育体制の充実を図るためにより一層、各施設、各企業との連携を密にし、本校の教育内容の理解をお願いしていく。

#### ③特記事項

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1	高校新卒者の募集にあたって、入学試験を10月以降に実施しているが、出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他、学生募集は適正に行われている。 【教職員アンケート 質問45 3.6】(3.2)
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において、卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など、正確に伝えられている。 【教職員アンケート 質問46 3.2】(3.2)
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問47 3.3】(3.3) 【学生アンケート 質問19 2.8(2.8), 質問20 2.7(2.6)】

#### ①課題

募集活動について全職員による募集活動が定着化し、教職員アンケートが改善している。  
学納金については他校と比べ平均的な水準となっているものの、学生アンケートにおいてはやや低い評価となっている。

#### ②今後の改善方策

昨今の様々な価格高騰を受けて、学習に必要な諸経費についても影響がでている状況であるが、学生の採用者が急増している「国の高等教育修学支援新制度(無償化)」などをはじめとする学費の支援制度など、より学生に分かりやすく内容を周知できるように広報活動を加えていく必要がある。

#### ③特記事項

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	少子高齢化の中、入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに、経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	予算作成に際して、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1	適時、内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	HPでの情報公開等しっかりと対応できている。

#### ①課題

キャリアビジネス科の新設に伴い、入学者数は増加したが、退学者数については財政基盤の安定において課題である。

#### ②今後の改善方策

令和7年度の重点教育目標の1つであった200名以上の募集を達成することができ、入学者数の確保による財政基盤の安定化には繋がる結果となった。しかし、退学者数は昨年度と同程度であるため、退学防止に向けて、学生への支援体制、スクールカウンセラーや保護者との連携を密に行っていく。

#### ③特記事項

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部署, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

#### ①課題

概ね昨年度と評価は横ばいであるが、引き続き個人情報のセキュリティについて課題が残る。

#### ②今後の改善方策

学科学務担当者研修を継続して行い、基本となる法制度の理解から日々の業務につなげていく。

#### ③特記事項

特になし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	3	2	1	外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	3	2	1	ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。 【教職員アンケート 質問57 3.3】(3.0) 【学生アンケート 質問21 2.9】(2.9)
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4	3	2	1	職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。

#### ①課題

「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」について、教職員の評価については改善しているが、学生の評価については昨年度と変化はない。

#### ②今後の改善方策

学科間でのボランティア募集の共有などを行っているが、学生への周知方法について更なる環境整備が必要である。  
引き続き、競技者医療、高齢者医療の各委員会にて「ココサポ」「銭座サロン」への学生ボランティアの積極的な参加を促していく。

#### ③特記事項

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	外国人留学生が資格取得可能な学科については、留学生の受入れを積極的に行っている。資格取得学科に進学が可能となる日本語科も平成30年度から設置している。 【教職員アンケート 質問59 3.1】(3.1)
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	外国人留学生の受入れに関し, 専門の職員を配し, 現地での慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。在校生については日々の記録を整備し, 適切な在籍管理を行っている。 【教職員アンケート 質問60 3.1】(3.0)
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	留学生担当の職員を配するほか, 学科を横断した教員による留学生の学習, 生活指導担当の委員会を作り, 全校をあげての組織的な取り組みを行っている。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2	1	海外向けサイトの登録の他情報配信している。

#### ①課題

「留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。」について改善しているが、引き続き留学生の就労管理・生活支援や健康管理については、グループ全体で注力していく必要がある。

#### ②今後の改善方策

オーバーワーク防止など留学生の就労管理については、留学生に関する委員会を中心に対策を行っていく。また、認定日本語教育機関申請に向けて準備を行っていく。

#### ③特記事項

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 令和7年度重点目標に対する総括

- (1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%達成
- ①今年度の各学科の実質合格率は、理学療法科82.6%、介護福祉科31.6%(日本人100%、留学生10.3%)、スポーツ柔整科100%、鍼灸科は鍼師77.8%、灸師83.3%であった。  
全体的に善戦した令和7年度ではあったが、次年度は100%の合格率を目指しつつも、最低でも全国平均合格率は確保する。
  - ②就職率は、今年度も良好であった。令和8年4月1日現在で、理学療法科が82.8%、介護福祉科100%(日本人100%、留学生100%)、スポーツ柔整科100%、鍼灸科92.3%、日本語科100%(進学100%)、就職率100%)であった。  
県内就職率は、県外就職も視野に入れた指導をしていることから78%に低下した。
  - ③令和7年度は、教職員の退職もなく、学科の「総合的な教育力」が向上した年度であった。各学科共に模擬試験や国家試験の成果はわずかながら上向き傾向にあることは期待できる。
  - ④近年の学生の多様化・低学力化の中で継続的な自主学習や家庭学習の習慣化には、今後も粘り強い指導が不可欠である。特に、令和5年度からは、入学予定者に対する「入学前教育」を実施し、「入学前課題」等による高校と本校のブリッジ学習を実施している。
  - ⑤各学科とも「国家試験等年間指導計画」に基づいて計画的・組織的な指導を進めている。授業以外に、補修・補講等、学力向上対策、定期試験・模擬試験後の指導や成績不振者には個別面談個別指導等も実施している。
- (2) 社会人基礎力を身につけた自立する職業人・社会人の育成
- ①本校は、学園理念「地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる」の具体化を意図して、教育目標に「各学科の専門力と人間としての総合力を育成する」と掲げ、次のような条件を備えた「真の職業人」の育成を目指している。
    - お客様第一の考え方ができること。
    - 人に納得してもらえる専門知識・技術を身に付けること。
    - 人に尊敬してもらえる人徳を備えること。
    - 「匠」を育てること。
  - ②社会との橋渡し教育は、専門知識・技術教育と共に本校の責任であると認識している。  
各学科ともに、トレーナー活動・地域行事・ボランティア活動等に参加する機会も多く、挨拶、礼儀、マナー、態度、心遣い、コミュニケーション等社会人基礎力の育成を図ってきた。
  - ③今年度で3年目になる本校独自事業である「卒業教育」は、更に充実の度を増している。「卒業生のスキルアップ支援」「同窓生等との交流と絆づくり」、「本校の広報活動」という主たる3つのねらいの具体化を図る充実した内容になってきている。  
令和7年度の研修参加者総数は、昨年度の115名から131名(柔道整復科未実施分除く)に16名の微増であった。本事業が卒業生等の実践的な学びやスキルアップに繋がっている意義は大きい。事業に対するニーズは高く、現役生の参加も目立った。参加者にも、大変、好評を得た独自事業となっている。
- 令和7年度に工夫して取り組んだこと

  - 各学科が、3月実施という駆け込み実施にならないように配慮した。
  - 参加者の都合等に配慮した開催とした。
  - 本年度も、現役学生の研修への参加を促したことで学生の新たな学びにも繋がったことの意義も大きかった。
  - 柔道整復科が、企画・案内はしたものの参加者が少なく、実施を見送らざるを得なかったことは課題である。
- (3) 留学生教育の充実と基本的な生活習慣の確立
- ①本校の令和8年3月31日現在の留学生総数は、199名である。内訳は、日本語科が119名、キャリアビジネス科が20名、介護福祉科が60名であり、総学生数に占める留学生の割合は38.5%である。
  - ②留学生教育では、各学科ともに「留学生教育の質の向上」、「JLPT(日本語能力試験)4級以上全員取得」、「留学生のための進路開拓と指導の充実」である。令和5年の10月には入国管理局から「クラスⅠ」の指定をいただいている。
  - ③日本語科のJLPT合格率は、令和5年度56.6%→令和6年度62.6%→令和7年度71%と確実に年々教育効果は上昇している。特に、今年度は、N2が6名(合格率32%)、N3が25名(合格率54%)と上級での合格者が増加したことは評価できる。しかし、N4の合格率が35%であり、低学力層の引き上げと学習意識の啓発に課題が残った。  
2年生のN4以上の資格取得者は、83名中52名で取得率は62.6%であった。
  - ④学生の学力の多様化に配慮した現在の「学力別学級編成」等に加えて、「基礎学力の定着」、「読解力の養成」、「ドリル時間の確保」等日常の授業や指導に工夫をした結果が出ていると評価している。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 令和7年度重点目標に対する総括

⑤留学生の進路状況は、本年度は、以下の通りである。

○令和8年3月卒業予定者の進路状況－進路決定率99%

(令和7年3月12日現在)

- ①4年生大学－0名
- ②短期大学－0名
- ③専門学校－82名
- ④就職－1名(県外)

○専門学校82名の中で、本校の介護福祉科24名、キャリアビジネス科34名と学園内部進学者が増加した。

○留学生の分野別進路希望先(進学・就職)は、主としてビジネス50%、介護30%、ホテル14%という傾向にある。

⑥留学生の特別な問題行動もなく、落ち着いた1年間であった。本学園独自の「生活の記録」と「留学生実態アンケート」結果に基づいた個別面談や学科職員の日常のきめ細やかな指導が成果に繋がっている。また、精霊流し、地域清掃、連合自治会大運動会、年末餅つき大会等地域行事やボランティア活動等積極的な地域貢献ができており、関係自治会や地域住民等にも「喜ばれる存在」であり、地域の高齢化の中での期待は大きい。

○特に、令和7年度は、主として、次の課題の改善に努めた。

- ①留学生増加による専門学校入試や競争率上昇と募集早期締め切りへの対応
- ②大学入試改革による関東圏の専門学校の留学生入試の早期化
- ③留学生の進路の多様化への具体的な指導・対応
- ④キャリア教育の充実 — 学生の進路意識高揚

(4)「学科目標シート」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化

①学園挙げて従来の「学校自己評価」に加えて令和5年度から本校独自の「学科目標シート」を実施して3年目である。

②令和7年度に見られる「学校自己評価」の結果は、次の通りであった。

○総合評価－3.6(前年比同評価)

○主な特徴

- ①令和7年度の重点目標の一つであった学生募集200名以上を達成することができた。
- ②養成施設指定規則に基づいた学校経営ができていているという評価を得ている。
- ③退学者は、昨年度比同数の17名、・休学者11名であり、次年度の課題として残った。
- ④「卒後教育」の実施による卒業生支援の強化は、受講者に配慮して更に工夫する必要がある。
- ⑤教職員の専門性・教育の質・学校力等の更なる向上が必要である。

③令和5年度から内容の実践と充実を図るねらいで各学科ごとの「学科目標シート」に変更して3年目となった。

各学科は、検討会(8月、12月、3月)を開く等「学科力の質の向上」を目指して取り組んできた。

(5)「攻めの学生募集」－200名以上の学生確保

①本年度の新入生は、定員220名(日本語科を除く)に対して、5学科で昨年度比73名増の200名であった。

②学科ごとに見ると、理学療法科39名、介護福祉科39名、柔道整復科26名、鍼灸科22名、キャリアビジネス科74名であった。

入学者200名中、高校生が78名、社会人17名、留学生105名であった。

募集では、キャリアビジネス科、理学療法科、柔道整復科が大幅増であったが、介護福祉科の日本人、鍼灸科には課題が残った。全体的には、近年にない順調な年度であったと評価している。

③令和8年度募集の主な実績

- 長崎市－令和7年度入学生30名→令和8年度入学生45名－増加
- 西彼杵郡－令和7年度入学生7名→令和8年度入学生10名－増加
- 諫早市－令和7年度入学生9名→令和8年度入学生9名－例年並み
- 島原市－令和7年度入学生4名→令和8年度入学生5名－例年並み
- 五島市－令和7年度入学生3名→令和8年度入学生1名－減少
- 昨年度比増加校－長崎明誠(+7名)、海星(+7名)
- 昨年度比減少校－こころ咲良(-3名)、大村(-3名)

④令和8年度学生募集の総括

○評価できること

ア オープンキャンパスの内容を見直し、学年別オープンキャンパス・体験型オープンキャンパス等参加者のニーズに応える工夫をした。

イ 交通系広告を多く入れたことで本校認知度が上がった。

ウ 「総合型選抜」のニーズが上がっており、その対応をしっかりとできた。

エ 教員内で「広報委員担当者」を任命して3年が経過して、各学科の募集対応力が向上した。

○課題として残ったこと

ア 社会人募集の対策が弱く、タイミングが遅い。

イ 離島・島原方面の出願が弱い。島原バスや一人暮らし支援制度の認知度を上げる必要がある。

ウ クロージング力(オープンキャンパス・予約・出願の出だし等)を更に上げる必要がある。

エ 国家試験合格率・就職率等本校の教育力で学生募集ができる学校を目指す。

○次年度に向けて

ア ホームページのデザイン等リニューアル

イ オープンキャンパスの内容変更－体験授業時間の短縮、学生スタッフの個別相談対応

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 令和7年度重点目標に対する総括

###### ④退学者数－17名(昨年度同人数)

###### ア 学年別退学者数

- 1年生－12名－退学者の70.5%を占める。
- 2年生－5名
- 3年生－0名

###### イ 学科別退学者数

- 理学療法科－9名－退学者の52.9%を占める。
- 柔道整復科－4名
- 介護福祉科－3名
- 鍼灸科－1名

###### ウ 理由別退学者数

- 学校生活不適応－7名－退学者の41%を占める。
- 就職・病気等－4名(就職2名・病気2名)
- 学業不振－3名
- 進路変更－2名
- 経済的理由－1名

※例年、「進路変更」等が多かったが、令和7年度は「学校生活不適応」や「学業不振」等が目立った。

学生の進路意識の曖昧さや多様化等の傾向も一因と考えられる。

※日頃の教育活動の中では勿論のこと、学校カウンセラー等専門家の支援も得て学生の相談体制・支援体制を強化する必要はある。

###### エ 休学者数－11名

(内訳)1年生－5名 2年生－4名 3年生－2名

###### (6)キャリアビジネス科の現状と課題

###### ①令和7年度在籍数－1年生20名(男7名・女13名)

###### ②国籍－全員ネパール

###### ③令和7年度の主な取り組み

###### ア 学力関係

- JLPT(日本語能力試験)は、在籍20名中、令和8年2月現在ではN3－6名、N4－8名の計14名で、JLPTのN4以上者は70%である。
- 次年度は学生の学力の実態把握をして、合格できるレベルの受験を促して成功体験に繋ぎたい。毎日の小テスト、定期的な模擬試験、弱点をレーダーチャートで視覚化して自己学習に役立てたい。
- 特定技能試験やTOEICを目指させ、対策授業・GoogleClassroom活用等により、学びの環境を整備したい。日常的な授業への取り組みは熱心であるだけに、今後に期待している。

###### イ 進路関係

- 企業開拓・ハローワークセミナー(5回)・インターンシップ(学外学習)・ハローワーク面接・校内企業説明会・企業見学会等現実的な取り組みを実施した。特に、研修の度に、意識の高まりと成長を感じることができたことは成果である。

###### ウ 生活関係

- 学習の基盤は生活であると考え、個別面談等を通して具体的な指導を徹底した。また、夏・冬・春の長期休業前は、事前指導を実施した。

###### エ 募集活動関係

- 令和8年度の入学予定者は74名(令和8年3月10日現在)である。男性8名、女性66名で、国籍はネパール73名ベトナム1名である。
- 令和8年度入学生は、学園内進学者が多かった。次年度も学園内の関わりを強化して定期的な進路希望調査、個別面談卒業生オンライン談話等工夫して成果に繋ぎたい。また、学生の進路実現に向けた進路開拓を強化する。

## 1. 学校の教育目標 令和8年度

- 1 ビジョン  
「地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる」
- 2 ビジョン実現に向けたテーマ  
地域社会から必要とされる人材を提供する。  
地域社会から必要とされる組織であり続ける。
- 3 学校教育目標  
「各学科の専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
  - (1)教育の質の向上を図り, 国家試験合格率・就職率100%の達成
  - (2)社会人基礎力を身につけた「自立した職業人」の育成
  - (3)キャリアビジネス科を含む留学生教育の充実と進路開拓
  - (4)「組織として機能する学校づくり」による学校活性化
  - (5)学校体制として取り組む学生募集－200名以上の学生確保
- 5 具体的な対策
  - (1)「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
  - (2)自立した職業人への準備教育の推進
  - (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
  - (4)国家試験・進路指導の充実
  - (5)留学生教育の質の向上と進路開拓
  - (6)「組織として機能する学校づくり」による学校活性化
  - (7)「攻めの学生募集」の推進－200名以上の学生募集
- 6 環境美化と地域社会等との豊かな関係づくり
  - (1)心のこもったサービスの提供と環境美化活動の推進
  - (2)学園ビジョン「地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる」の具現化
  - (3)地域社会や関係各校, 機関, 施設等との関係強化

## 2. 令和8年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
  - ア 「学ぶ」→「解る」→「できる」→「身につく」の段階を意識した「わかる授業」の実施  
「伝える授業」だけでなく「伝わる授業」をする。
  - イ 「主体的な学び」に繋ぐ各学年に応じた具体的な指導徹底 → 学習の習慣化
- (2)自立する職業人への準備教育の推進
  - ア 社会人基礎力の育成と「自律から自立に向けた人間教育」の推進
  - イ 学びが、働きが、生きがいに繋がる職業的実践能力の育成
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
  - ア 学生の自己肯定感を育む教育の推進と「学級経営」の充実
  - イ 日常の学生理解・支援や個別面談等による「心に響く指導」の推進
- (4)国家試験・進路指導の充実
  - ア 各学科の「国家試験年間指導計画」による組織的・継続的な指導の充実
  - イ 学習の習慣化・模擬試験準備学習と低学年からの国家試験対策と学力強化
  - ウ 働きがい・生きがいに繋ぐ職業的実践教育の推進
- (5)留学生教育の質の向上と進路開拓
  - ア 留学生の学力定着を目指す授業の充実と進路開拓
  - イ 本校独自の「生活の記録」・「留学生実態アンケート」を通じた支援強化
- (6)「組織として機能する学校づくり」による学校活性化
  - ア 日常の「報告・連絡・相談」の徹底と「情報の共有」
  - イ 学科間の意思疎通と関係強化
- (7)「攻めの学生募集」の推進－200名(うち日本人100名)以上の学生募集
  - ア 全職員による広報・募集活動の推進
  - イ 高校・整骨院等との信頼関係の構築 — 高校訪問・情報提供・広報啓発等